

「自衛隊の最高指揮官は總理なんだから、オレに聞けばいいのに」
ワイン通の世耕弘成官房副長官が選んだ赤ワインが注がれたグラスを傾けながら、首相の野党批判は止まらない。

自衛隊の海外での活動に対する安全保謲法制の関連法案の国会審議が始まつた。自衛隊の海外での活動を飛躍的に拡大させ、戦後日本の安全保障政策の大転換となる法案だ。安倍首相は今国会での成立を期し、自らが答弁の先頭に立つて「だが、現実には、国民の理解を得られているとは到底

では、「思わない」が五ヵ月・八%に達した。

厚さ三センチの法律案

「安倍首相の意見には賛成だが、高い支持率のためか、最近、非常に強気な発言が多いと思う」（神奈川・スズキ）
（福岡・男・48）

え続けてきた安全保険政策の権威である。

39

上から

目線、の「安保法制」

一強政権の 死角

安保政策の権威・佐瀬氏(右)
見れる国会(上)

▶「国民不在の議論のツケは政権に返ってくる」[左瀬昌盛]

▶ 現役自衛官「今こそ戦死のリスクを逃げずに語ってほしい」

▶「なんで謝らなきゃならないの」
天敵辻元清美に逆ギレ

江元氏への野次で謝罪

投票再選の声が聞こえ
だが、驕りはないだろうか。安倍政権の死角を
回は、戦後日本の安保
保法制を取り上げる。

「委員長の『ご指摘、ご指示も頂きました、私の発言に
関して重ねておわび申し上
げるとともに、ご指示を踏
まえて真摯に対応してまい
ります』」

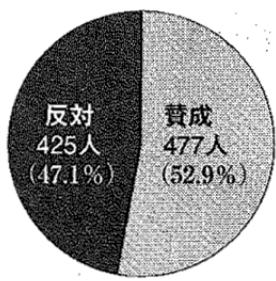
六月一日、安保関連法案
を審議する特別委員会の冒
頭、安倍晋三首相は、こう
言って頭を下げた。

しかし、ここに至るまで
は糺余曲折があつたと明か
すのは、ある自民党国対関
係者だ。

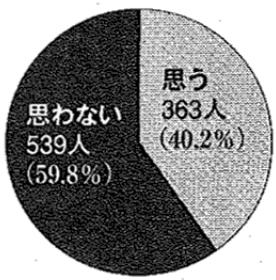
「総理は辻元清美議員への
ヤジについて、謝罪を拒否
し続けていました。ただ、
国会に法案を提出し、審議
をお願いしている立場の政
府が、『早く質問しろよ』
とヤジを飛ばしたのでは話
にならない。総理自身が、
野党のヤジを『静かにして
ください。学校で習わなか
ったんですか』と厳しく批
判したばかりでしたから。

「委員長のご指摘、ご指示も頂きました、私の発言に
関して重ねておわび申し上げるとともに、ご指示を踏
まえて真摯に対応してまいります」

【質問1】安保関連法案の今国会成立に賛成ですか？反対ですか？



【質問2】安保関連法案について安倍首相は丁寧に説明していると思いますか？



※本誌メールマガジン読者902名へのアンケート(回答期間は5月27日～6月1日)



PKO活動での自衛隊の任務拡大を目指す

『○○の一文を削除し、△△を加える』などとあり、現行法と逐一、照合しないと、どういう条文になつてあるか把握できないのです。専門家でも理解するのに気力体力を必要とする代物なのです。実務にあつた官僚、弁護士出身の議員以外には、理解することは難しいでしょう。

概要を記したペーパーも公表されていますが、逆にこちらは簡略化されすぎてこうしたもの以外、安倍政権は国民に対して、説明する資料を用意していない。これで国民に対する国会審議を理解しろというのは無謀で、国民の困惑を買うの

安倍首相や中谷大臣は、「自衛隊のリスクは高まらない」などとのらりくらりかわしています。このキンケル外相のように、毅然と國民に自國の置かれた現実を語れる人材が安倍政権にいないのは残念です」

佐瀬氏は、安保政策の転換に賛成だからこそ、今まで反対の声が増えることを

「国民の理解が得られないまま法案の成立を強行することは、安保政策に禍根を残す」と語るのは、民主党の長島昭久衆院議員だ。

「私個人としては、集団的自衛権は認めるべきだと思つてゐるし、我が國の平和と安全に直結する部分はしっかりと整備しないといけない」と思つています。

ただ、今回の改定は安全保障における戦後最大の大改革であり、一国会、二国会はまたぐくらの氣概で、腰をしつかり据えて臨むべきだと思います。当初、「危険だな」と思つて

危惧している。「安保法制は今国会で採決されると思いますが、世論調査の数字をみても、決して國民から承認されたわけではありません。そのため法案が成立したとしても、國民によるヒステリーのような反発は当分収まらないでしょう。國民の理解を得なければならぬのです。これまで、最低五、六年はかかると思います」

政府がそういう議論を面倒くさがつたり、自ら説明をはしょつて進めていくことは、結果として安倍首相が目指していることを成就させにくくすると思います。

安倍首相は、五月の訪米時の演説で「夏までに成立させる」と口にしたので、焦つてゐるのであります。衆議院、参議院で与党は過半数を握っていますから、法

案成立を一気にやろうと思えばできる。しかし、國民の信頼を失った日米同盟、自衛隊の活動は、意味を持たないものになってしまいまます」

一九九〇年代のPKO協力法も、当初は「軍国主義の再来」との批判にさらされたが、三度の国会をまたぎ、計百九十時間の審議時間をかけた結果、國民の理解も進み、採決の際には一部の野党が賛成にまわって可決された。

だが今回、官邸はこうした「慎重審議」は想定していない。

「与党は、審議時間を八十数時間と見越しています。一日七時間、週三回審議すれば、國民の目にはきちんと議論しているように映る結果たせると踏んでいるのであります」(自民党関係者)

外務次官経験者は、こうした「時間数だけ稼げばいい」という姿勢が、安倍首相の乱暴な答弁につながっていると指摘する。

「これは日本の民主主義の根幹にかかわる問題です。

前出の佐瀬氏は、現在の日本と同じような状況下にあつたドイツの例を引き合いで、安倍政権には胆力が足らないと喝破する。

「一九九五年、それまで憲法解釈からNATO領域外に派兵できなかつたドイツ女性議員が、『もし兵士の棺が戻る事態になつたらどうするのか』と議会で質問したのですが、キンケル外相は『そういうケースはあるでしょ。ただその時は、国防大臣とともに、棺の傍らに一晩立ち続け、殉死者を悼み続ける』と毅然と答えたのです。その結果、野党から造反者が出て、派兵は可決された。今回、

△△を加える』などとあります。専門家でも理解するのに気力体力を必要とする代物なのです。実務にあつた官僚、弁護士出身の議員以外には、理解することは難しいでしょう。

概要を記したペーパーも公表されていますが、逆にこちらは簡略化されすぎてこうしたもの以外、安倍政権は国民に対して、説明する資料を用意していない。これで国民に対する国会審議を理解しろというのは無謀で、国民の困惑を買うの

△△を加える』などとあります。専門家でも理解するのに気力体力を必要とする代物なのです。実務にあつた官僚、弁護士出身の議員以外には、理解することは難しいでしょう。

概要を記したペーパーも公表されていますが、逆にこちらは簡略化されすぎてこうしたもの以外、安倍政権は国民に対して、説明する資料を用意していない。これで国民に対する国会審議を理解しろというのは無謀で、国民の困惑を買うの

△△を加える』などとあります。専門家でも理解するのに気力体力を必要とする代物なのです。実務にあつた官僚、弁護士出身の議員以外には、理解することは難しいでしょう。

概要を記したペーパーも公表されていますが、逆にこちらは簡略化されすぎてこうしたもの以外、安倍政権は国民に対して、説明する資料を用意していない。これで国民に対する国会審議を理解しろというのは無謀で、国民の困惑を買うの

△△を加える』などとあります。専門家でも理解するのに気力体力を必要とする代物なのです。実務にあつた官僚、弁護士出身の議員以外には、理解することは難しいでしょう。

概要を記したペーパーも公表されていますが、逆にこちらは簡略化されすぎてこうしたもの以外、安倍政権は国民に対して、説明する資料を用意していない。これで国民に対する国会審議を理解しろというのは無謀で、国民の困惑を買うの

△△を加える』などとあります。専門家でも理解するのに気力体力を必要とする代物なのです。実務にあつた官僚、弁護士出身の議員以外には、理解することは難しいでしょう。

概要を記したペーパーも公表されていますが、逆にこちらは簡略化されすぎてこうしたもの以外、安倍政権は国民に対して、説明する資料を用意していない。これで国民に対する国会審議を理解しろというのは無謀で、国民の困惑を買うの

△△を加える』などとあります。専門家でも理解するのに気力体力を必要とする代物なのです。実務にあつた官僚、弁護士出身の議員以外には、理解することは難しいでしょう。

概要を記したペーパーも公表されていますが、逆にこちらは簡略化されすぎてこうしたもの以外、安倍政権は国民に対して、説明する資料を用意していない。これで国民に対する国会審議を理解しろというのは無謀で、国民の困惑を買うの

△△を加える』などとあります。専門家でも理解するのに気力体力を必要とする代物なのです。実務にあつた官僚、弁護士出身の議員以外には、理解することは難しいでしょう。

概要を記したペーパーも公表されていますが、逆にこちらは簡略化されすぎてこうの

「国民の理解が得られないまま法案の成立を強行することは、安保政策に禍根を残す」と語るのは、民主党の長島昭久衆院議員だ。

「私個人としては、集団的自衛権は認めるべきだと思つてゐるし、我が國の平和と安全に直結する部分はしっかりと整備しないといけない」と思つています。

ただ、今回の改定は安全保

保障における戦後最大の大改革であり、一国会、二国会はまたぐくらの氣概で、腰をしつかり据えて臨むべきだと思います。当初、「危険だな」と思つて

いた「時間数だけ稼げばいい」という姿勢が、安倍首相の乱暴な答弁につながっていると指摘する。

「オレの外遊中に、若手は

何をやつているんだ！」

GWの外遊から帰国した安倍首相は、周囲にこう怒りをぶちまけたという。

安倍法制の改定は正しいと考えていますが、夏までに強行採決しようという安倍首相の手法は、國民と民主主義を軽視しています。安倍首相は、祖父の岸信介首相の日米安保改定について、「批判を浴びて首相を辞することになったが、安倍改定が正しかったことは、歴史が証明している」とよく主張されます。しかし、岸氏が辞任に追い込まれたのは条約改定の中身ではなく、強行採決を行なった結果、國民の理解を得るために、國民の間に渦巻く異論を排除した姿勢、手法が反発を受けたからです。そうした経緯を安倍首相は全く理解しておらず、岸氏の二の舞にならないか懸念しています

自民党内からも、安倍首相の姿勢に疑問の声が上がりますが、その声は広がっています

「安倍首相のさらなる強気を後押ししている。

自民党内からも、安倍首

相の姿勢に疑問の声が上がりますが、その声は広がっています

「安倍首相の

